

PRESS RELEASE

[プレスリリース]

視覚障害者マラソン世界記録保持者でパラリンピック金メダリスト ヘンリー・ワンヨイケ氏が日本を走る

- 治療可能な視覚喪失を支援する世界規模の募金活動の一環
- ワンヨイケ氏について書かれた高円宮妃殿下和訳による感動の児童書を発表
- どなたでも参加可能なワンヨイケ氏と皇居周回コースを走る 5Km ミニ・マラソンを開催

[2006年2月3日、東京]英金融大手スタンダードチャータード銀行(本店:ロンドン、東京支店:東京都千代田区、東京支店 CEO:マーク・デヴァダソン)は、視覚障害者マラソン世界記録保持者であり、シドニーおよびアテネで行なわれたパラリンピックで3つの金メダルを獲得した、ケニア出身の全盲マラソン走者ヘンリー・ワンヨイケ氏が、同行の Seeing is Believing キャンペーンの世界親善大使として、2月13日から2月19日の間来日することを発表しました。このキャンペーンは2006年末までに100万人の視覚を回復するために十分な募金を集めることを目的としています。

来日中ワンヨイケ氏は、2月18日に行なわれるどなたでも参加可能な皇居周回コースを走る 5Km ミニ・マラソン(添付資料をご参照ください)、ならびに高円宮妃殿下編集・和訳によりワンヨイケ氏のこれまでの人生が描かれた感動の児童書“Run With Me(僕と走ろう)”の発表などを含む、いくつかの募金イベントに参加します。

また、ワンヨイケ氏は東京近郊の学校を数校訪問する予定であり、高円宮妃殿下ならびに Seeing is Believing キャンペーン活動が積極的に行なわれている国々の大使が参加して、2月14日に六本木にあるグランド・ハイアットで開催されるチャリティー・ディナーにもゲスト・スピーカーとして出席します。

ワンヨイケ氏は、昨年4月17日に行なわれたハンブルグ・マラソンにおいて、2時間31分31秒というタイムで、自らが持つ全盲走者としてのマラソン世界記録を更新しました。また、世界のトップ走者が競いあう全員参加型の大会でも複数の距離クラスで上位入賞を飾っています。同氏はSeeing is Believingキャンペーンの一環としてナイロビ、シンガポール、ムンバイ、香港で開催されるグレート・レース・オン・アース(GROE: Greatest Race on Earth)シリーズの最終レースを終えての来日となる予定です。

世界規模でSeeing is Believingキャンペーンを支援するスタンダードチャータード銀行は、より幅広い分野の方々による日本における募金活動のご支援を得ることを望んでいます。なお、メディア関係者の方もすべてのイベントにご招待いたします。

2月14日には、ヘンリー・ワンヨイケ氏が彼のこれまで送ってきた人生、競技者としての成功への道、「世界一早い全盲走者」、Seeing is Believingキャンペーンの親善大使としての役割について語るプレス・カンファレンスが予定されています。なお、プレス・カンファレンスでは当日の夜に正式発表される児童書のメディア関係者向け内覧会が行なわれます。

また、プレス・カンファレンスでは、ワンヨイケ氏の伴走者を務めるジョセフ・キブンジャ氏、ならびにワンヨイケ夫人ののミリセント・ワンジャ・ムワンギ氏が出席します。2月17日には個別会見の時間が設けられておりますので、ご希望の方はお問合せ先までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

別紙:

1. ヘンリー・ワンヨイケ氏を囲むチャリティー・ディナー、皇居周縁を走る5Kmミニ・マラソンを含むイベント一覧
2. プレス・カンファレンスご招待状
3. ヘンリー・ワンヨイケ氏の略歴
4. Seeing is Believing キャンペーンおよび GROE についての説明
5. 5Kmミニ・マラソンの広告

お問合せ先:(日本語で対応可能です)

スタンダードチャータード銀行
広報部 部長
パトリシア・バーダー・ジョンストン
Tel: 03 5511-1361
Email:patricia.bader_johnston@jp.standardchartered.com

アシュトン・コンサルティング・リミテッド
ダン・アンダーウッド/リチャード・ブラウン/
ジョーンズ美佳
Tel: 03 5425-7220
Email:mail@ashton.jp

イベント予定一覧表

1. 2月14日(火)、**Seeing is Believing** プレス・カンファレンス: 東京アメリカンクラブ、プレジデンツルームおよびガバナーズルームにて。ヘンリー・ワンヨイケ氏と同氏の伴走者を務めるキブンジャ氏ならびに両氏夫人が出席(詳細は別紙をご参照下さい)。
2. 2月14日(火)、**バレンタインデー・チャリティー・ディナー**: グランドハイアット東京にて。200人以上が参加し、**Seeing is Believing** キャンペーンおよびスポンサーを通じて提供された賞品のラッフルおよび入札式競売による募金活動を支援。ゲスト・スピーカーはヘンリー・ワンヨイケ氏、高円宮妃殿下他(メディア関係者のためのお席を限定数ご用意。通訳あり。詳細は下記まで)。
3. 2月13日(月)より2月16日(木)まで、**インターナショナル・スクール訪問**: ワンヨイケ氏が東京近郊にあるインターナショナル・スクール 6校を訪問、**Seeing is Believing** キャンペーンの支援を提起する。
4. 2月16日(木)、**筑波大学付属盲学校訪問**: ヘンリー・ワンヨイケ氏が東京に住む視覚障害を抱える子供たちと交流し、彼自身の経験を分かち合い、そして点字版“Run With Me(僕と走ろう)”を寄贈。
5. 2月17日(金)、**個別会見**: ヘンリー・ワンヨイケ氏とキブンジャ氏ならびに両氏夫人の個別会見。通訳有り。
6. 2月18日(土)、**“ヘンリーと走る 5Km ミニ・マラソン”**: 当日の申し込みで誰もが参加可能な、皇居周回コースを走るチャリティー・ミニ・マラソン。参加者には大人 3,000 円、学生 1,500 円の募金をお願いし、**Seeing is Believing** の Tシャツを進呈。参加の学生が、障害者マラソン組織であるアキレス・トラック・クラブ・ジャパンに所属する視覚障害走者と一組になって走ることを体験できるのも、このチャリティー・マラソン(走行または歩行)の特徴の一つ。**詳細は別紙資料をご参照ください**。なお、なるべく多くの方々に参加していただくため、このイベント情報を広めることにご協力をお願いいたします

上記イベントに関するお問い合わせ先:

スタンダードチャータード銀行
 パトリア・ベーダー・ジョンストン
 Tel: 03 5511-1361
 Email: patricia.bader_johnston@jp.standardchartered.com

アシュトンコンサルティング・リミテッド
 ダン・アンダーウッド/リチャード・ブラウン/
 ミカ・ジョーンズ
 Tel: 03 5425-7220 Email: mail@ashton.jp

プレス・カンファレンス

障害者マラソン世界記録保持者でもあるパラリンピック金メダリスト ヘンリー・ワンヨイケ氏との会見 2006年2月14日午後2時30分より開催

“世界で最も早い全盲走者”として知られる、ケニア出身の奇跡の走者、ヘンリー・ワンヨイケ氏の来日を記念して開催される記者会見に是非ご参加下さい。今回ワンヨイケ氏は、2006年末までに100万人の視覚喪失者の視覚回復に十分な資金調達を目標とする *Seeing is Believing* キャンペーンのグローバル親善大使としてスタンダードチャータード銀行より招かれます。来日中ワンヨイケ氏は、募金活動や地域の親善活動に多数参加しますが、そのハイライトは、2月18日(土)開催の皇居周回コースを走る5Kmミニ・マラソンです。

感動的な生い立ちに加え、わずか8日間で2度も障害者マラソンの世界最高記録を更新するという人間技とは思えない実績により、世界中の競技者の英雄となったワンヨイケ氏との会見をご希望の方は、下記までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

記者会見では、まず、スタンダードチャータード銀行のCEOマーク・デヴァダソンがヘンリー・ワンヨイケ氏をご紹介し、会見が始まります。また当日は、ワンヨイケ氏の伴走者ジョセフ・キブンジャ氏ならびに両者夫人、そしてアキレス・トラック・クラブ・ジャパン(障害者に走ることを奨励する世界組織、本部:ニューヨーク)の代表者も皆様からのご質問に対応いたします。

また、記者会見では、高円宮妃殿下編集・和訳によるワンヨイケ氏のこれまでの人生が描かれた感動の児童書“Run With Me(僕と走ろう)”をご覧いただくことができます。

詳細

日時: 2006年2月14日(火)
場所: 東京都港区麻布台2-1-2
東京アメリカン・クラブ
プレジデンツルームおよびガバナーズルーム
内容: 午後2時20分: 開場
午後2時30分: プレゼンテーション
午後2時50分: 質疑応答
午後3時30分: 終了

当日のお問い合わせは 080-5690-1363(英語) 090-9363-0789(日本語) までどうぞ。

なお、プレス・カンファレンスには通訳がつきます。

出席のご回答は2月10日までに、Eメールまたは添付用紙のファックスにてお願いいたします。
ご質問等ございましたら、ご遠慮なく下記までお問い合わせ下さい。(日本語でどうぞ)

アシュトンコンサルティング・リミテッド
ダン・アンダーウッド/リチャード・ブラウン/ミカ・ジョーンズ
Tel: (03) 5425-7220 Fax: (03) 5425-0857
Email: mail@ashton.jp

* 恐れ入りますが、下記に出欠のご意向をお書きいただき、ファックスまたは電子メールでご返送願います。

2006年2月14日(2:30 pm-4:00 pm)、スタンダードチャータード銀行が主催する、障害者マラソン世界記録保持者でパラリンピック金メダリスト、ヘンリー・ワンヨイケ氏のプレスコンファレンスに

出席します

欠席します

場所:	東京都港区麻布台 2-1-2 東京アメリカン・クラブ Tel: 3224-3687
交通アクセス:	地下鉄日比谷線神谷町駅 2 番出口より徒歩約 12 分 地下鉄大江戸線／南北線麻布十番駅 6 番出口より徒歩約 12 分 (添付の地図をご参照下さい)

貴社/雑誌名:

ご出席者名:

お電話:

FAX:

Eメール:

ファックス・電子メールの送付先

ファックス (03) 5425-0857

電子メール: mail@ashton.jp

リチャード・ブラウン／ミカ・ジョーンズ
アシュトン・コンサルティング・リミテッド
電話: (03) 5425-7220

ヘンリー・ワンヨイケ

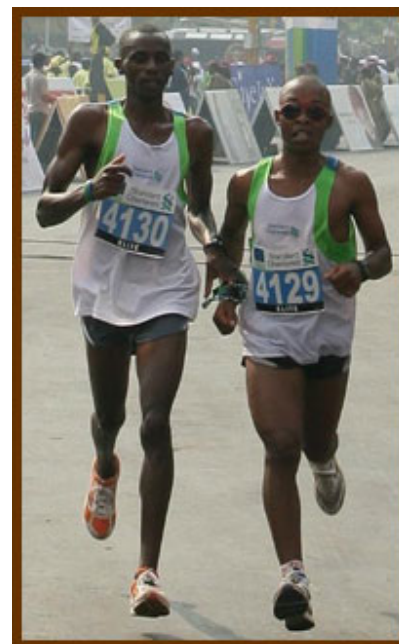
Henry Wanyoike

1974年5月10日生

ケニア生まれのヘンリー・ワンヨイケ氏が陸上競技のトレーニングを始めたのは彼が12歳、まだ目が見えていた頃でした。その後1995年に、軽度の脳卒中に見舞われた際に視神経に障害を生じ、ワンヨイケ氏は突然視覚を喪失しました。しかし伴走者がいれば走れることを知った彼は、1999年より学校の代表選手を務め、以降マラソン大会や世界選手権に出場しています。

現在ワンヨイケ氏の伴走者を務めるのは、長年の友人でもあるジョセフ・キブンジャ (Joseph Kibunja) 氏です。ワンヨイケ氏とキブンジャ氏の二人は互いの手首をストラップで結び、ワンヨイケ氏が失格にならぬよう、キブンジャ氏は常に彼のわずか後方を伴走します。

ワンヨイケ氏は、2000年のシドニー・パラリンピックの5,000メートル走で初の金メダルを獲得しました。その他にも、2002年に日本で開催された視覚障害者マラソンでは金メダル獲得とともに世界最高記録を更新し、2003年8月の世界視力障害者選手権大会 (カナダ・ケベック州) では5,000メートル、10,000メートル走の金メダルを獲得、2003年のボストンマラソンで優勝、そして2004年2月のムンバイ・マラソンでは健常者も含め総合4位と、数々の輝かしい成績をおさめてきました。



2004年のアテネ・パラリンピックでは5,000メートル、10,000メートルのレースで2つの金メダルの獲得と世界記録の更新という快挙を成し遂げました。その後も、2005年4月17日のロンドン・マラソンでも世界新記録2時間32分51秒を記録し、わずか1週間後のハンブルグでのレースではそれを80秒間上回る成績で、自己の保持する世界記録を塗り替えました。

また、ワンヨイケ氏はマラソンランナーであるのみならず、慈善家としても尊敬を集めています。彼は「ヘンリー・ワンヨイケ基金」を立ち上げ、アフリカおよび先進諸国における障害への意識喚起をめざし、Christoffel Blindenmission、Bensheim、Light for the Worldといった、様々な国際組織の活動に携わってきました。また、スタンダードチャータード銀行が視覚喪失者の視覚回復に向けて実施する Seeing is Believing キャンペーンの親善大使も務めています。

Seeing is Believing について

2003年に始まった Seeing is Believing は視覚喪失問題の解決の支援を目的とした、世界規模で行なわれる重要な地域主体のプログラムです。世界には3,700万人の視覚障害者があり、成人は5秒に1人、子供は1分に1人の割合で視覚を喪失している計算となりますが、実に75%の視覚喪失は回避可能あるいは治療可能なのです。Seeing is Believing は、スタンダードチャータード銀行、サイト・セーブर्स・インターナショナル(本拠地:英国)ならびに回避可能な視覚喪失者を減らすことに努める団体VISION2020が共同で、百万人の視覚回復を目標に3年間で600万米ドルの募金を集めるキャンペーンです。1年目には2003年10月9日のワールド・サイト・デーまでに当初の目標の2倍である5万6000人の視覚回復に必要な寄付金が寄せられ、大成功を収めました。

- 視覚喪失者の75%は回避可能です
- 成人は5秒に1人、子供は1分に1人の割合で視覚を喪失しています
- 世界中では1億6,100万人が視覚障害に、また3,700万人が視覚を喪失しています
- VISION2020によって1億人の人々が視覚喪失から救われます
- 回避可能な視覚障害者の90%は発展途上国で発生しています
- 視覚を喪失した子供の60%が1年以内に死亡しています

Seeing is Believingのウェブサイト(英語): www.seeingisbelieving.org.uk/

Seeing is Believingのウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/seeing.html

グレートイースト・レース・オン・アース(GROE: The Greatest Race on Earth)について

スタンダードチャータード銀行が主催するグレートイースト・レース・オン・アース(GROE)は、これまでに例のない4つのマラソンを走る仮想リレーとして2004年に始められました。1年目は22カ国のチームと19人の個人を含む260人が参加しました。

初年度の成功に引き続き、スタンダードチャータード銀行は前回の2倍の参加者を集めた2度目のGROEを主催することになりました。今回のGROEはナイロビ、シンガポール、ムンバイ、香港の各地で行なわれるマラソンからなり、中には世界で最も過酷な条件のもとで開催されるコースも含まれています。なお、各地で行なわれるマラソンの日程は以下の通りです。

海拔1,600メートルと世界一の高さで行なわれるナイロビ・マラソン	2005年10月23日
島周縁を走るシンガポール・マラソン	2005年12月4日
歴史ある街を駆けめぐるムンバイ・マラソン	2006年1月15日
港町を走る香港マラソン	2006年2月12日

スタンダードチャータード銀行東京支店が応援する日本人チームは、山口俊宗氏(ナイロビ)、小岩健一氏(シンガポール)、安達裕司氏(ムンバイ)、そして石田寛氏(香港)の4人から構成されます。

日本およびアジアにおけるスタンダードチャータード銀行について

スタンダードチャータード銀行は、125年前、日本におけるはじめての出張所を横浜に開設しました。東京支店は山王パークタワー(千代田区)にあり、現在170人を擁しています。うち日本人社員は94%にのぼります。スタンダードチャータード銀行は、アジア、アフリカ、中近東の各地域に投資する日本企業および銀行に対して、ホールセール(大口金融)、カストディ、トレジャリーおよび貿易取引の各業務分野におけるサービスを提供しながら成長を続けています。今年7月にはプライオリティバンキングのためのリテール支店を東京丸の内に新設しました。

スタンダードチャータード銀行は過去1年間、Permatia Bank(インドネシア)、韓国第一銀行(韓国)、ANZのアジア、中近東全域のプロジェクトファイナンス事業、Prime Credit(香港)等の一連の買収戦略と、自身の自律成長を共に進め、アジア、アフリカ、中近東の各地域で確固たる地位を確立してきました。スタンダードチャータード・ピーエルシーは、ロンドン証券取引所ならびに香港証券取引所に上場し、時価総額ベースでFTSE100構成銘柄の上位25社の一つに数えられています。

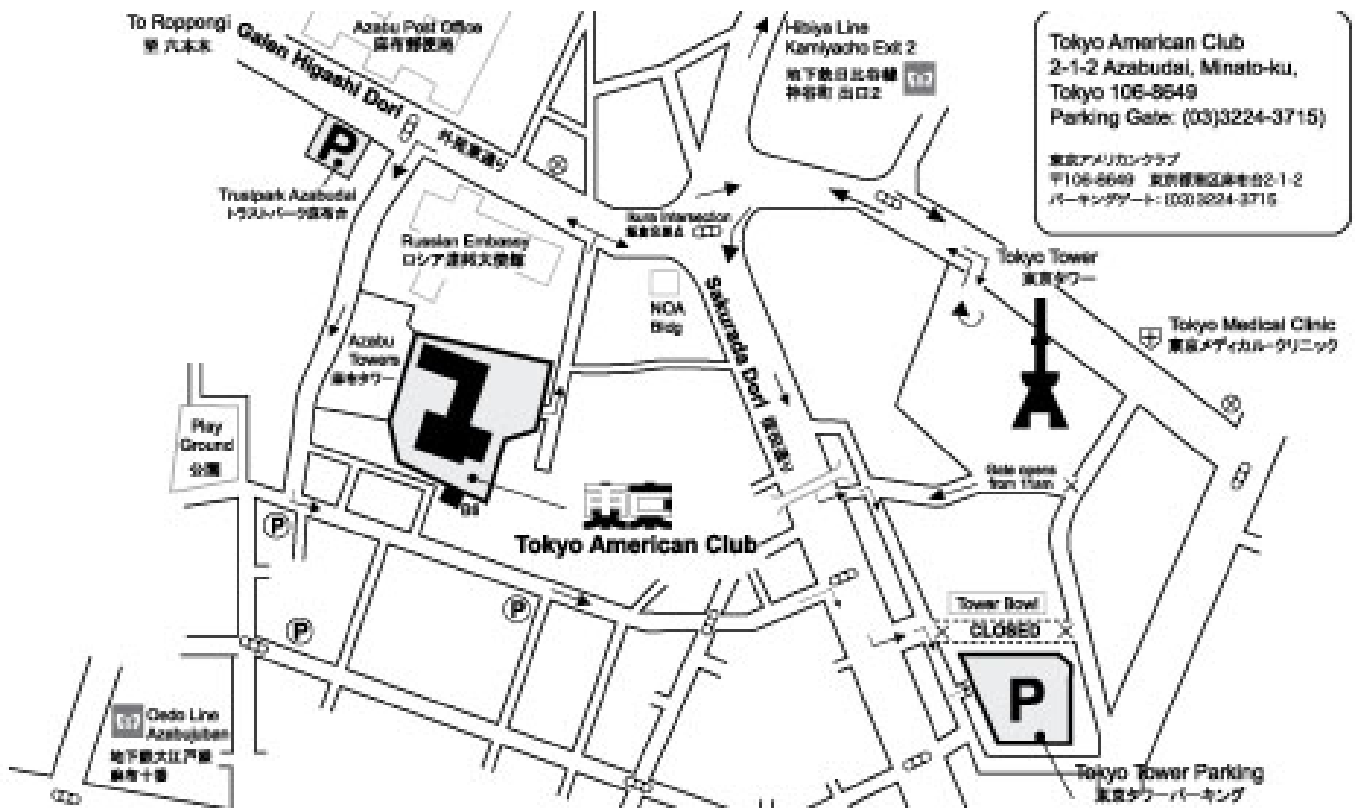
スタンダードチャータード銀行は、視力回復およびHIV/AIDS教育の分野で地域組織を支援するCSRプログラムを積極的に実施するなど、地域社会への貢献に向けてたゆまぬ努力を続けています。同行は今年6月、英IRマガジン社主催の「第15回英国IR賞2005・ベストCSR部門賞」を受賞しました。

スタンダードチャータード銀行は“Seeing is Believing”プログラムを推進しており、2年間で100万人の視力回復の実現を目指しています



日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(日本語): www.standardchartered.com/jp/japanese/

日本におけるスタンダードチャータード銀行のウェブサイト(英語): www.standardchartered.com/jp/index.html



<http://www.tokyoamericanclub.org/informationNews/directions/index.cfm>

